



再生可能エネルギーについて考えを広げる

実施校：札幌市立平岡中央中学校 教諭 三上久代

対象 中学校

学級 1年生

科目 国語

時間 計7時間

参考資料
『朝日新聞』2013年12月23日朝刊
「貧しい家に光を」

単元名

「流氷とわたしたちの暮らし」青田昌秋（『国語1』光村図書出版）

目標

その1 『グリーンパワーブック』を読み、再生可能エネルギーについて自分の考えを広げる。
その2 本から得た情報をもとに、根拠を明確にして自分の考えを書く。

あてはまる学習指導要領の項目

第1学年 C「読むこと」(1)オ、カ
B「書くこと」(1)ア、ウ

全体の指導計画

- 第1時 1本文「流氷とわたしたちの暮らし」を通読し、目標を確認する。
2漢字・語句を確認する。3文章の構成をとらえる。
- 第2時 4本論の内容を読み取り、理解する。
- 第3時 5図表と本文の関係を読み取り、内容理解に役立てる。
- 第4時 6本文の内容を要約する。
7筆者の主張について自分の考えを持つ。
- 第5時 8『グリーンパワーブック』を読み再生可能エネルギーと私たちの暮らしの関係についてグループで感想を交流し、考えをまとめる。
9『グリーンパワーブック』で得た情報をもとに「石炭や石油を多く使わない生活をするにはどうしたらよいか」について自分の考えをワークシートに記入する。
10自分の考えを述べるために『グリーンパワーブック』を読み、具体例をワークシートに記入する。
11読書生活デザインノートに『グリーンパワーブック』の読書記録をとる。
- 第6時 12『グリーンパワーブック』から読み取った情報をもとに、「具体例を示して書こう」を参考に「石炭や石油を多く使わない生活にするにはどうしたらよいか」について、具体例をあげ、自分の考えを400字程度で書く。
- 第7時 13書いた文章を互いに読み合い、推敲する。
14振り返り

期待できる学習効果

- ・『グリーンパワーブック』を読んで意見交流をする場面で、バズセッションの体験ができる。
- ・具体例をもとに自分の考えを書くことができる。
- ・エネルギーや環境問題について視野を広げることができる。
- ・環境問題の解決のためのアイデアを自分でも考えてみようという意欲を喚起できる。



再生可能エネルギーについて考えを広げる

実施校：札幌市立平岡中央中学校 教諭 三上久代

授業内容（本時、第5時の内容となります）

導入

- ・『グリーンパワーブック』で読み取ったことをもとに、教科書にある「具体例を示して書こう」に取り組むことを説明する。
- ・「石炭や石油を多く使わない生活にするにはどうしたらよいか」について書くことを確認する。
- ・再生可能エネルギーと私たちの暮らしの関係についてグループで感想を交流し、考えをまとめる。

授業のポイント☆目標を明確にする。

展開

- ・教科書「流氷とわたしたちの暮らし」の本文（P168 L6～7）と書くテーマの関連を説明する。『グリーンパワーブック』で得た情報をもとに「石炭や石油を多く使わない生活をするにはどうしたらよいか」について自分の考えをワークシートに記入する。

授業のポイント☆自分の考えを述べるための具体例が適切かを確認する。

まとめ 『グリーンパワーブック』を読み終わったら、「読書生活デザインノート」に記入する。

授業のポイント☆書名、著者名、出版社などを正確に記入すること。読み終わった生徒は2013年12月23日 朝日新聞朝刊「貧しい家に光を」の記事を読む。

子どもたちの反応・声

- ・今まであまり知らなかったエネルギーについて、図入りで説明されていてよくわかった！こういう本は文字ばかりのイメージがあったけど、そのイメージが消えました。かわいいイラストで読んでいて楽しかったです。
- ・最初、リサイクルや節電しかこの地球上ではしていないと思っていたけれど、『グリーンパワーブック』を読んで、今では地球上でこれほどのエコをしていると知ってすごく感心した。自分もいつか参加してみたいと思った。

授業の様子

